



一生の晴れ舞台で、 最高の美しさを引き出す。

●ウエディング写真を総合プロデューサー 株式会社アバント 代表取締役

周鉄鷹氏

結 婚。それは新郎新婦にとって、一生に一度のメモリアルなイベント。その日、その瞬間、二人が迎えたひとつひとつの出来事を思い返すとき、写真は特別な存在になる。ここに、単身中国から来日し、その特別な瞬間をシャッターに収めることに情熱を捧げた女性がいる。周鉄鷹さん。写真の世界に魅了された彼女のストーリーを追った。

「縁 —enishi—」



ma guise

「縁—enishi—」 <http://enishi-kamakura.jp>
 「ma guise」 <http://maguise-net.com>
 「Otonacco」 <http://www.facebook.com/otonacco>



●周 鉄鷹(Thieyun Shu)氏
 1998年、中国魯迅美術学院グラフィックデザイン専攻映像分野卒業。1998年7月に来日。東京学芸大学大学院グラフィックデザイン専攻卒業。

●株式会社アバント
 〒248-0011
 神奈川県鎌倉市扇ガ谷1-13-46
 TEL 0467-39-5093

●メッセージ
 感動と笑いと家族の絆、すべてが凝縮される結婚式は私が大好きな撮影のステージ。おふたりに訪れる最高の喜びと感動を取り込んで、「光と空気を感じる写真」を表現いたします。20年、30年後におふたりで見返したときに当時の感動や、おふたりだけのちょっとしたエピソードもよみがえるように大切に心を込めてお撮りいたします。



デザインから写真に転じた日

周

鉄鷹さんが代表取締役を務めるのが、株式会社アバント。ウエディング写真をトータルにプロデュースする会社だ。高い技術を持つフォトグラファー、ヘアメイクによる撮影はもちろんのこと、ロケーション選びの提案やコーディネートまで行っている。何を隠そう、経営者である周さん自身が会社の看板フォトグラファーだ。そのため、アバントには技術指導や待遇などフォトグラファーたちが働きやすい環境が整っている。

しかし、そんな周さんも最初からフォトグラファーを志していたわけではなかった。周さんのキャリアはグラフィックデザイナーから始まっている。魯迅美術学院、通称LFAFという中国の超難関校で、実に六百人に一人という狭き門をくぐり抜け、デザインを学んできた。その後、東京学芸大学大学院に進学するため来日する。

「大学院を卒業後、ビデオやスナップ撮影を請け負うムービー企画という会社に入り、デザイン

ナーとして働きました。ところが人が足りなくて、私も写真を撮るようになったんです。しかも、デザインと共通するものがあつたため、それなりに通用してしまいました(笑)」

そんな生活が暫く続いた後、転機が訪れた。

「長谷川敏雄先生というフォトグラファーの写真を見る機会があつたんです。ものすごく感動しました。感動で震えて、一日中呆然としていたのを憶えています。被写体だけではなく、空気や光の流れまで計算されていて、まるで絵画のようでした。そのときから、絵作り」という写真の表現の幅の広さの虜になつてしまつたんです」

指名が増え、八芳園の仕事を獲得

その感動も冷めやらぬうちに、周さんは長谷川先生に弟子入りを志願した。厳しい指導として知られた師のもとで2年を過ごした。何せ写真にかける意欲と集中力はすさまじく、気が付くと「周さんに撮影してほしい」という指名が目立つてきた。師からも「私が君に教え

られることはもう何もない」と言われ、免許皆伝となつた。そんなある日、

「自分の撮つた写真をブログにアップしていたら、結婚式場で有名な八芳園の担当者にオファーをもらったんです」

八芳園の仕事を受けるために、ムービー企画の時の盟友、寺尾公郊氏がアバントを立ち上げてくれた。そして、ウエディング写真の本格的なスタートを切るこ

ととなつた。その後、2012年には、周さんがアバントの代表取締役を受け継いでいる。

社長になり、3ブランドがスタート

周さんが写真を撮る時に最も大切なことは、お客さんの美しさを最大限に引き出してあげることだという。

「自分の作品を撮っているわけではありません。撮っているのは、芸術の前に商品なんです。お客様に喜んでもらうことが最優先で、芸術性はあくまでお客様の笑顔を引き出すためのものと考

えています」

現在アバントでは、3つのブランドを展開している。古都・鎌

倉で結婚写真を残したい人のための「縁—enishi—」鎌倉ウエディング」、自由な発想でロケーションやシチュエーションの提案、手配もすべて行う「maguise (マーガイズ)」、子供の中に眠っている個性を引き出すことをコンセプトにした、全身トータルコーディネート付きのロケーション撮影を行う「Otonacco (大人っ子)」だ。

「結婚をはじめ、人生には素敵な瞬間がたくさんあります。たとえどんなに月日が経つても、その写真を見るだけで当時の思い出が鮮やかに蘇り、特別な時間に戻ることができる。そんな写真をアバントでは提供しています」

最後に、今後の展望を訊いてみた。

「海外でロケーション撮影をプロデュースしていきたいです。撮影環境が日本より自由なので、より広くお客様の要望に応えることができるんです」

「カメラのバッテリーの入れ方も知らなかった」という周さん。今や彼女は、多くの人達を感動させる「フォトグラファー」、も

とい「画家」になつている。